第12回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

大学に求められる役割と大学コンソーシアムの新たな展開

コミュニティ形成と地方創生時代における大学コンソーシアム

開催日

2015(平成27)年 9/12(土)・13(日)

開催場所

金沢工業大学　扇が丘キャンパス

共催：全国大学コンソーシアム協議会　一般社団法人大学コンソーシアム石川
後援：文部科学省　総務省　経済産業省　一般社団法人国立大学協会
一般社団法人公立大学協会　一般社団法人日本私立大学連盟
日本私立大学協会　全国公立短期大学協会　日本私立短期大学協会
全国知事会　朝日新聞社　毎日新聞社　読売新聞社　日本経済新聞社
共同通信社　石川県　金沢市　野々市市　北國新聞社　北陸中日新聞

石川県政記念しいのき迎賓館

開催日時・場所

2015(平成27)年 9/12(土) 13:00～20:00
(ポスターセッションは12:00～18:00)

フォーラム 金沢工業大学 扇が丘キャンパス(多目的ホール:6号館3階)
情報交換会 金沢工業大学 扇が丘キャンパス(レストラン:21号館1階)

9/13(日) 9:30～11:30

分　科　会 金沢工業大学 扇が丘キャンパス(講義室:8号館1・2・3階)

大学に求められる役割と大学コンソーシアムの新たな展開

コミュニティ形成と地方創生時代における大学コンソーシアム

人間は、自然と共生しながら集団で生活する社会を形成し、公共と文化を育んでいます。知的好奇心とモノづくりの欲求は、科学で得られた知見の技術への応用を定型化し、大学等の高等教育にあっては、このような科学・技術の推進と人材の育成を重要な使命としています。しかし、人類は今や、自然環境と社会環境の両面において、また、グローバル化に伴う様々な問題に直面しています。国内的には、少子高齢化や人口減少、企業の海外移転が生じており、地域格差の拡大による地方の限界問題は深刻です。

このような状況にあって、我が国は人類や国家が直面する課題に対応しつつ、持続的な発展に向けた科学技術の革新と有為な人材を育成、さらには地域のコミュニティの再生が喫緊です。大学における人材育成の教育、知を創生する研究、および社会貢献の使命は不易ではあるが、グローバル人材の育成、研究における持続可能性の追求、地域の拠点である、COC、COIは時代の流行と言えます。

平成16年に始まる国公私大の法人化の流れは、競争と協調を進めることで自らの存在理由を確認し、“社会のための大学”に応えています。大学コンソーシアムは協調の一環にあるが、大学のあり方が大きく変化する中で、コンソーシアムにも新たな展開が求められています。

その転換の一つの大きなポイントは、大学が地域との協働教育を通してコミュニティ形成に一定程度以上の役割を果たすことであろう。少子高齢化と地域の過疎化が劇的に進行しつつあるわが国において、地域コミュニティの崩壊を防ぎ、若者の流出を食い止める有効な手立ての一つは、もちろん、大学群が主体となる高等教育機関の地域での「踏ん張り」に求められます。今回、「コミュニティ形成」と「地方創生」を副題に入れさせて頂いた所以です。

回を重ね、再びこの北陸の地で開催されることになった、今回の全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムにおいて、大学コンソーシアムの新たな発展につながる道をみなさんと模索したい。

プログラム

1日目：2015(平成27)年9月12日(土)

時　間	内　容	場　所
11:30～13:00	受付	多目的ホール前ロビー(6号館3階)
12:00～18:00	ポスターセッション	ライブラリーセンター(6号館1階)
12:00～13:00	ポスターセッションコアタイム	
12:00～12:30	全国大学コンソーシアム協議会　総会	会議室(1号館1階)
13:00～13:20	挨拶 ●協議会代表幹事挨拶 赤松　徹眞（大学コンソーシアム京都　理事長） ●開催地代表者挨拶 山崎　光悦（大学コンソーシアム石川　会長） ●来賓挨拶 塩見みづ枝（文部科学省　高等教育局　大学振興課　課長）	多目的ホール(6号館3階)
13:20～14:20	基調講演 【講演者】 増田　寛也（東京大学公共政策大学院　客員教授） 【テーマ】 地方創生と大学の果たす役割	
14:20～15:20	ポスターセッションコアタイム	ライブラリーセンター(6号館1階)
15:30～18:00	シンポジウム 【シンポジスト】 山野　之義（金沢市　市長） 今井　光規（摂南大学　学長） 富野暉一郎（一般社団法人 京都府北部地域・大学連携機構　代表理事） 林　勇二郎（北陸先端科学技術大学院大学　監事） 【コーディネーター】 柴田　正良 氏（金沢大学　理事(教育担当)　副学長）	多目的ホール(6号館3階)
18:00～18:15	会場移動および情報交換会受付	レストラン(21号館1階)
18:15～20:00	情報交換会	

2日目：2015(平成27)年9月13日(日)

時　間	内　容	場　所
9:00～ 9:30	受付	エスカレーター前(8号館1階)
9:30～11:30	分科会(詳細は5～6ページをご覧ください)	第1分科会　8・101講義室(8号館1階) 第2分科会　8・104講義室(8号館1階) 第3分科会　8・201講義室(8号館2階) 第4分科会　8・204講義室(8号館2階) 第5分科会　8・301講義室(8号館3階) 第6分科会　8・304講義室(8号館3階)

基調講演　地方創生と大学の果たす役割

日本創成会議が昨年公表した「消滅可能性都市 896 リスト」は各方面で取り上げられ、政府もはじめて 2060 年に 1 億人という人口目標を設定、今年度は全国の自治体に地方版人口ビジョン、総合戦略策定が努力義務化されています。地方創生にとって重要なことは、地方に若者に魅力あるしごとをつくる、地方への新しい人の流れをつくる、結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備、新しい時代に沿ったまちづくりです。対策を検討するにあたっては、あらゆる分野において多くの知見を有する地域の大学の役割が極めて大きいです。行政、産業界、金融機関等地域を構成する関係者と大学とが危機感を共有し、活発な議論を行うことが求められます。

基調講演者

増田 寛也 氏（ますだ ひろや）

東京大学公共政策大学院　客員教授

1951年東京都生まれ。東京大学法学部卒。77年建設省入省。
95年から岩手県知事として3期12年活躍。2007年より安倍内閣で総務相に就任、福田内閣で再任。
現在、野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授などを務めるほか、近年では2011年5月より日本創成会議人口減少問題検討分科会の座長を務める。

シンポジウム　大学に求められる役割と大学コンソーシアムの新たな展開
コミュニティ形成と地方創生時代における大学コンソーシアム

大学のあり方が大きく変化する中、大学コンソーシアムにも新たな展開が求められています。

今回、「地方創生と地域コミュニティの役割」、「地域連携のなかで大学に求められる役割」、「京都における大学共同教育推進事業の推進と今後の展開」及び「地方型社会と大学」という4つの話題提供を手がかりとして、大学コンソーシアムの新たな発展につながる道を、皆さんとともに考えたいと思います。

地方創生と地域コミュニティの役割

山野 之義 氏（やまの ゆきよし）

金沢市　市長

慶應義塾大学文学部を卒業後、4年間のソフトバンク株式会社勤務を経て、1995年5月から2010年11月までの間、金沢市議会議員として市政に携わる。2010年12月より金沢市長。現在2期目。1962年金沢市生まれ。
石川県市長会会長（2010.12.10～）、全国市長会副会長（2013.6.5～2014.6.4）

地方型社会と大学

林 勇二郎 氏（はやし ゆうじろう）

北陸先端科学技術大学院大学　監事

東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻修了（1970.3）。金沢大学講師、助教授、教授、米国バデュー大学客員教授を経て金沢大学長(1999.9-2008.3)。日本学術会議会員（19･20期）。独立行政法人国立高等専門学校機構理事長（2009.4-2012.3）。現在、富山大学経営協議会委員、北陸産業競争力協議会議長、科学技術振興機構産学展開部上席フェロー等。

地域連携のなかで大学に求められる役割

今井 光規 氏（いまい みつのり）

摂南大学　学長

1938年岡山県生まれ。1968年大阪大学院文学研究科博士課程英語学専攻単位取得退学。広島大助教授、大阪大教授、同大学言語文化部長などを経て2002年摂南大に着任。国際言語文化学部長、外国語学部長を歴任し、2007年10月から摂南大学長（現職）。博士（比較社会文化）。2003年～2005年日本中世英語英文学会会長。2009年～2013年英語コーパス学会顧問。大阪大名誉教授。

コーディネーター

柴田 正良 氏（しばた まさよし）

金沢大学　理事（教育担当）　副学長

1982年名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学、1989年9月金沢大学文学部助教授、2002年4月同教授、2006年4月金沢大学大学院人間社会環境研究科長（～2008年3月）、2008年4月金沢大学人間社会学域人文学類長（～2012年3月）、金沢大学附属図書館長（～2014年3月）、2014年4月金沢大学理事（教育担当）／副学長（現在に至る）。

京都における大学共同教育推進事業の推進と今後の展開

富野 暉一郎 氏（とみの きいちろう）

一般社団法人 京都府北部地域･大学連携機構　代表理事

1966年3月京都大学理学部宇宙物理学科卒業、1968年3月東京大学大学院理学系研究科修士課程（天文学専攻）修了（理学修士）、1973年9月東京大学大学院理学系研究科博士課程（天文学専攻）退学、1977年8月株式会社ヘリオス取締役社長、1984年11月逗子市長、1994年4月島根大学法文学部教授、1999年4月龍谷大学法学部教授、2011年4月龍谷大学政策学部教授、2013年4月龍谷大学政策学部特任教授、2015年4月龍谷大学名誉教授。

ポスターセッション

ポスターセッションでは、全国のコンソーシアム組織の先進的な事例や活動状況を紹介しています。実践的な取組を共有できる情報収集の場として、ぜひご活用ください。

日時：9月12日（土）
12:00～18:00
（コアタイム：12:00～13:00および14:20～15:20）
場所：6号館1階ライブラリーセンター

分科会　2015（平成27）年9月13日（日）

第1分科会（一般社団法人 大学コンソーシアム熊本）

8・101講義室（8号館1階）　第1分科会プログラム

地域創成における大学コンソーシアムの可能性を考えるワークショップ

日本の各地域がその特性を生かし、活力を持つことは、国の総合戦略おいても大変重要な位置づけとなっています。また、各地域の大学にはそれぞれの地域の知の拠点としての役割への期待が高まっています。大学が地域毎に連携した大学コンソーシアムが各地域の活性化にどのように貢献できるか、地域創成の可能性を考え・学びあう機会とします。この分科会に於いて各大学コンソーシアムの地域創造の取り組みを紹介し、互いの問題解決に向けた議論を行って頂ければ幸いです。

ファシリテーター

上野　眞也氏（熊本大学　政策創造研究教育センター　教授）
渡邉　和親氏（大学コンソーシアム熊本　事務局長）
東　　勇一氏（熊本学園大学　学術文化部事務次長）

コーディネーター

石原　義光氏（大学コンソーシアム熊本　地域創造部会長）

タイムスケジュール

9:30～ 9:40	導入（ワールドカフェ方式の説明も含める）
9:40～10:00	最初のグループでのディスカッション
10:00～10:20	親を残して第2のグループへ移動し、ディスカッション
10:20～10:40	親を残して第3のグループへ移動し、ディスカッション
10:40～11:00	最初のグループに戻り、聞いてきた話を皆で共有し、まとめる
11:00～11:30	各グループの発表+まとめ

第2分科会（公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩）

8・104講義室（8号館1階）　第2分科会プログラム

大学における「奨学生」の現状と将来の方向性について

現在の学生の経済環境は厳しさが増しており、家計からの支援が減り、生活費を削減し、アルバイトや奨学金で賄わなければならい現状です。

多摩地域の企業から拠出して頂いた資金を原資とする給付型の「多摩未来奨学金」は、経済支援と地域に貢献できる人材の育成を融合させ、なおかつ就職活動にも結びつけている奨学金制度です。

奨学生が活動する「多摩未来奨学生プロジェクト」は、大学教員、専門家の指導の下、地域活動や企業訪問を通し、グループワークを行い、企業や地域への提言書を発表する。多摩地域の学生が地域企業に対する理解を深め、多摩地域活性化に資する人材を育成するプロジェクトであり、企業経営者との交流や企業訪問、インターシップの機会を設け、地元優良企業とのネットワーク作りを積極的に行っています。地域企業との連携型奨学金制度を紹介します。

多摩未来奨学金の活動について

報告者　根本　忠宣氏（中央大学　商学部　教授）

企業から見た奨学生に期待すること

報告者　押木　昌巳氏（株式会社いなげや　社長室長）

コーディネーター

細野　助博氏（中央大学大学院　公共政策研究科　教授、学術・文化・産業ネットワーク多摩　専務理事）

タイムスケジュール

9:30～ 9:40	多摩未来奨学金の設立について（コーディネーター）
9:40～10:10	多摩未来奨学金の活動について（報告者①）
10:10～10:50	企業から見た奨学生に期待すること（報告者②）
10:50～11:30	会場とのディスカッション（コーディネーター）

第3分科会（一般社団法人 教育ネットワーク中国）

8・201講義室（8号館2階）　第3分科会プログラム

教育委員会と大学コンソーシアムとの連携

広島県教育委員会は昨年2014（平成26）年2月に教育ネットワーク中国の正会員となり、12月に正式に協定書を交わしました。しかしながら県教委および高等学校との関わりは、生涯学習講座「ぱれっとカレッジ」が2001（平成13）年から、高校生が大学において講義を受講する制度（公開授業および公開講座）は2002（平成14）年から、加盟大学の教員が高校へ出向いて授業を実施する高大連携公開講座および教育ネットワーク中国「エニカカレッジ：これからの教師像」は2005（平成17）年からスタートしています。連携協力は双方の教育研究にとって非常に有益であるからこそ、各事業は継続実施されてきました。本分科会では、その県教委担当者により、これまでの連携の歴史を振り返り、高校教育の質の向上にとって今後どのようなことが期待されているかを説明し、他方大学関係者は、「これからの教師像」を例に挙げて、県教委との連携がどのように講座開設にプラスとなり、受講生の満足感を引き出しているかについて説明します。

教育委員会と大学コンソーシアムの連携による高校教育の質の向上について

報告者　小野　裕之氏（広島県教育委員会事務局教育部 高校教育指導課課長補佐（兼）高校教育指導係長）

教育ネットワーク中国「これからの教師像」について

報告者　川野　祐二氏（エリザベト音楽大学　学長、教育ネットワーク中国　代表理事）

コーディネーター

志々田　まなみ氏（広島経済大学　教授、教育ネットワーク中国　運営委員）

タイムスケジュール

9:30～ 9:40	趣旨説明
9:40～ 10:20	報告・質疑応答（報告者①）
10:20～ 11:00	報告・質疑応答（報告者②）
11:00～ 11:30	全体協議・まとめ

分科会　2015(平成27)年9月13日(日)

第4分科会（大学コンソーシアム佐賀）

8・204講義室（8号館2階）　第4分科会プログラム

地域における発達障害のある幼児への支援力向上のための佐賀県5大学・短期大学の連携と取組み

佐賀県内5つの大学・短期大学すべてが連携し，「幼稚園教諭・保育士の養成」という共通点を活かしながら，「発達障害のある幼児（可能性のある幼児も含めて）に対する支援力の向上」という地域の課題解決に向けて取り組んでいます。

大学間共通評価観点・大学間共通教育プログラムを構築し実施することにより，発達障害のある幼児に対する確かな支援力を有する幼保専門職業人である『子ども発達支援士（大学コンソーシアム佐賀認定）』を数多く輩出しています。

アンケート結果等からみた本取組に求められるもの
報告者　鬼塚　良太郎氏（九州龍谷短期大学　保育学科　准教授）

学生の学びの実態　-支援実習を通して-
報告者　泉　万里江氏（佐賀女子短期大学　支援コーディネーター）

養成プログラムを受けて学んだこと、そして現在
報告者　川浪　唯氏（学校法人江楠学園　鍋島保育園　保育士）

コーディネーター
川邊　浩史氏（西九州大学短期大学部　幼児保育学科　准教授）

タイムスケジュール

9:30～ 9:50	本取組の事業概要（コーディネーター）
9:50～10:20	アンケート結果等からみた本取組に求められるもの（報告者①）
10:20～10:30	質疑
10:30～10:50	学生の学びの実態　ー支援実習を通してー（報告者②）
10:50～11:05	養成プログラムを受けて学んだこと、そして現在（報告者③）
11:05～11:15	質疑
11:15～11:30	今後の事業展開と課題（コーディネーター）

第5分科会（公益財団法人 大学コンソーシアム京都）

8・301講義室（8号館3階）　第5分科会プログラム

自治体や地域と連携した留学生受入れ環境整備にむけて

2008年、日本政府は「留学生30万人計画」を発表し、2020年までに目標を達成すべく、様々な施策を講じています。少子高齢化、グローバル化の進展のもと、各大学・地域において様々な留学生受入れのための取り組みが進んでいますが、生活環境整備や学業を終えた後の就業希望者への支援等、課題も山積していると考えられます。この分科会では、全国でも留学生の支援に関して先進的な取り組みを展開されている事例とともに、京都で今年度より新たに発足する留学生支援のためのネットワーク組織について紹介し、今後の自治体・大学を含む教育機関・地域等の連携のなかでの望ましい留学生支援の在り方について考えていきたいと思います。

福岡県における留学生サポートの状況報告
報告者　渡辺　文氏（福岡県留学生サポートセンター運営協議会　事務局次長）

京都の日本語学校学習者の状況報告
報告者　山口　修氏（京都文化日本語学校　校長）

ネットワーク発足の経過と今後の活動
報告者　西松　卓哉氏（大学コンソーシアム京都　副事務局長、留学生スタディ京都ネットワーク　事務局長）

コーディネーター
小林　満氏（大学コンソーシアム京都　国際事業部長、京都産業大学外国語学部　教授）

タイムスケジュール

9:30～ 9:50	事例報告・質疑（報告者①）
9:50～10:10	事例報告・質疑（報告者②）
10:10～10:30	事例報告・質疑（報告者③）
10:30～10:40	休憩（質問票受付）
10:40～11:30	パネルディスカッション・総括

第6分科会（特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム）

8・304講義室（8号館3階）　第6分科会プログラム

地域活性や地域サービスの担い手となる人材の育成

かつては行政任せになっていた公共サービスや地域の活性化などは、近年、市民協働、産学協働、地域連携などの取組形態が求められるようになっており、その担い手として市民や学生の力が期待されています。また、従来、教養講座等学ぶことが中心だった市民が、現在では「学んだことを活かしたい」と考えている人が多数を占めるようになってきました。本テーマでは、地域の活性化や地域サービスの担い手となる人材を養成すること、あるいは、学びから実践への循環型生涯学習社会の実現を支援することなど、大学や大学コンソーシアムが果たす役割について、会場の皆様と共に考えていきます。

「NPOコミュニティ論の受講を基にした岐阜県コミュニティ診断士の育成」事例報告
報告者　菊本　舞氏（岐阜経済大学　経済学部経済学科　准教授）

「～学生のチカラで地域を盛り上げる～学生主導型地域活性化プロジェクト【さがまち学生Club】の取組み」事例報告
報告者　江藤　佑氏（相模原・町田大学地域コンソーシアム　主事）

学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型地域支援人材養成モデルの構築～資格認定を導入して～
報告者　難波　美都里氏（南大阪地域大学コンソーシアム　統括コーディネーター）

コーディネーター
岡﨑　裕氏（和歌山大学　教育学部教授）

タイムスケジュール

9:30～ 9:35	趣旨説明
9:35～10:00	事例1：ネットワーク大学コンソーシアム岐阜
10:00～10:25	事例2：さがまちコンソーシアム
10:25～10:50	事例3：南大阪地域大学コンソーシアム
10:50～11:30	会場との質疑応答&議論

申込方法

STEP1：申込み（先着順）

① 申込みURLから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを登録する。

② 登録したメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLアドレスが届く。

③ メールに記載されているURLにアクセスし、申込み手続きをする。

④ 申込完了後、「申込み完了メール」が届く。

※申込み完了メールが届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせください。
※申込み完了後の変更は、一切受け付けられません。
※基調講演者、シンポジスト、コーディネーター、分科会報告者の方は申込みは不要です。

STEP2：参加費の支払

① 申込み手続き完了後、郵送で払込票が届く。

② 最寄りのコンビニエンスストアで参加費を支払う。
※取り扱い可能店は払込票の裏面に記載。
なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。

【参加費支払締切：2015年8月7日（金）24:00まで】

※申込み手続き・参加費支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEB システム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。ご了承ください。報告集の代金をお支払いいただいている場合は、欠席された方にも後日送付いたします。

STEP3：参加証の発行

参加費の支払いが完了したら、参加証がメールで届く。
※8月21日（金）になっても参加証（メール）が届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせください。

STEP4：当日

参加証（メール）をプリントアウトのうえ持参し、受付にて提示する。

※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出ください。

申込期間

2015年6月2日（火）～7月31日（金）

【参加費支払締切：2015年8月7日（金）24:00まで】

※当日申込みは、一切受付けできませんので、ご注意ください。

参加費

申し込み区分	参加費	情報交換会費	報告集	合計
参加	3,000円	―	―	3,000円
参加＋情報交換会	3,000円	4,000円	―	7,000円
参加＋報告集	3,000円	―	1,000円	4,000円
参加+情報交換会+報告集	3,000円	4,000円	1,000円	8,000円

申込みURL（アドレス）

https://event.consortium.or.jp/zenkoku12/

もしくは

大学コンソーシアム京都　検索

全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織

ご所属の機関が、全国大学コンソーシアム協議会の加盟組織かどうかについては、以下のページをご参照ください。
全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織に属している場合、申込みの際、所属組織をご入力ください。

全国大学コンソーシアム協議会 加盟一覧　検索

問い合わせ先

全国大学コンソーシアム協議会 事務局
（大学コンソーシアム京都内）
【受付時間】
火曜～土曜 9:00～17:00
電話：075−353−9100
Email：alljapan-consortium@consortium.or.jp

会場へのアクセス

JR金沢駅

徒歩3分

バス利用

東口(兼六園口)
⑧番乗り場
「金沢工業大学」行き

バス10分

香林坊(アトリオ前)

バス25分

金沢工業大学

料金:340円

徒歩3分

タクシー利用

東口(兼六園口)
タクシー乗り場

タクシー20分

金沢工業大学

料金:約3,000円

※フォーラム当日は、バスの臨時便を運行いたします。

全国大学コンソーシアム協議会【設立趣旨】

近年、全国各地で大学連携、地域社会、産業界との連携による大学連携、大学コンソーシアムの取り組みが進められています。大学を超えた連携型教育・研究は、今やひとつの形態として大学教育の一角を担うようになりました。

また、その地に根ざす大学はもちろんのこと、地域の歴史、立地、特性を背景として設立された地域組織としての大学コンソーシアムは、いうなれば高等教育機関と地域社会とが深く結びつき、大学の発展と地域の活性化を実現する取り組みでもあります。

現在、高等教育は世界的な水準で質の保証が問われ、教育・研究は社会の評価が問われる時代でもあります。言い換えれば、社会の多様な教育ニーズに応え、特色ある教育・研究を創造することが求められています。

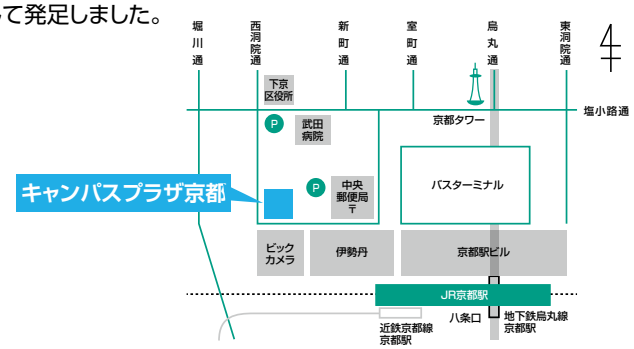
このような時代にあって、世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携でこそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。

この様な流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型の教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えにもとづき、「全国大学コンソーシアム協議会」を設置しました。(2004年11月)

全国大学コンソーシアム協議会【概要】

全国大学コンソーシアム協議会は、国内各地域の大学コンソーシアム（大学連合体・大学連携組織 ）からなる協議会組織で、各大学コンソーシアムの情報交流・研究交流を図り、わが国の高等教育の発展に資することを目的として、2004年11月28日に28コンソーシアムからなる組織として発足しました。

事務局【受付時間】火曜～土曜　9:00～17:00

全国大学コンソーシアム協議会事務局

〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下ル
キャンパスプラザ京都　大学コンソーシアム京都内
電話：075-353-9100
FAX：075-353-9101
E-mail：alljapan-consortium@consortium.or.jp